

Titanophora 紀州に産す

山田幸男

本年秋紀州に採集を試みた際その南端串本をも訪れたが、北海道水産試験場の木下虎一郎博士並びに瀬戸臨海実験所の山本虎夫氏の紹介によつて、串本町の森島千景氏採取の標本を見せて頂く機会をえた。同氏は特に貝類の採集者として知られた熱心家であるが、又海藻標本をも所蔵されるのでその一覽を乞うた次第である。所がその中で誠に珍らしい一標本にぶつかつて驚喜したのであるが、それが今此処に記す *Titanophora* なのである。その標本

は此処に掲げた写真に見る如き長さ約10㎝程の破片であるが筆者は一見して「嗚呼これが *Titanophora* でないか」と思わず嘆声を發した次第である。標本は1951年7月19日潮ノ岬に打上げられたものを森島氏の採集されたものであつた。本種の特徴は丁度イソノハナ属 (*Halymenia*) のイソノハナヤツヅレグサの様な様子をしているが体に石灰質を沈澱している為色合いが白ちやけた紅色で其の表面は何となくザラザラしている。そこで早速その割愛を願つて教室に持帰り検鏡した結果紛れもない *Titanophora*



Titanophora Weberae BOERG. x 1.

の一種であり、しかも *T. Weberae* BOERGENSEN なる種であろうという事も確かめることが出来て喜びに堪えない。それでは何故この種がそれ程珍しいのか。それは第一に本種の分布状態である。只今の所本種はニューギネア島に於いて故 WEBER van BOSSE 女史が Siboga 号探険旅行で採集された儘未だ何処にも採集されていない事であつて、それが飛び離れて紀州にその姿を現わした点である。黒潮が我沿岸の海藻分布の上に非常に著しい響影を与えていることは今更云う迄もないが、此処に又その明かな証拠が与えられたといつても好いであろう。次に興味ある点は *Titanophora* なる属が近年期せずして研究者の注意を引き、特に去る4月に逝去された BOERGENSEN 博士は詳しく此の属を研究して1943年及び1949年その結果を発表し全世界からは5種が区別されるとしたのである。

大体 *Titanophora* なる属の基となつた種はマウリチュウス島産のもので1873年 DICKIE により *Galaxaura Pikeana* DICKIE として発表されたものである。処が1885年になつて J. G. AGARDH は此の種がガラガラ属 (*Galaxaura*) のものではなくイソノハナ属 (*Halymenia*) に属するものとなし *H. Pikeana* (DICKIE) J. AG. となづけ且つ西印度産の近似の他の1種 *H. incrustans* J. AG. との為に *Titanophora* なる特別な節 (Section) をイソノハナ属中に設けてこれ等を収容した。処が1921年上述の WEBER 女史はシボガ探険隊で採集した材料をしらべそれがマウリチュウス産の *Galaxaura Pikeana* DICKIE 即ち *Halymenia Pikeana* (DICKIE) J. AG. と同物であるとし、しかも此の種はその体の構造からも又嚢果の出来方から見ても決して DICKIE の考えた様にガラガラ属のものでもなく又 J. AGARDH の考えた様にイソノハナ属のものでもなく、これはニクホウノオ属 (*Platoma*) に入るべきものとして *Platoma Pikeana* (DICKIE) WEBER van BOSSE と呼んだ。しかもそれより以前即ち1916年に故岡村金太郎先生が南洋のポナベ島よりの材料によつて記載発表された *Halarachnion calcareum* OKAM. (植物学雑誌第30巻、第349号、p. 13, Pl. 1, Figs. 19-21) も同じ種ではないかと言つていたのである。処が BOERGENSEN は更に嚢果の發育、構造を詳細にしらべ此等植物はベニスナゴ属 (*Schizymenia*) に最も近いものであるがそれとは異なる処があるので特別の一属とすべきであると主張し、已に AGARDH が節の名前として作つた *Titanophora* なる名前をこの新属名としたのである。そしてマウリチュウス島から初めて DICKIE の記載したもの、西印度産のもの、WEBER 女史のニュ

一ギニヤ産のもの、岡村先生のボナベ島のものは夫々別種であるとし又其の上マウリチュウス島には上記の *T. Pikeana* とは別の一種を産するとしてそれに *T. mauritiana* BOERG. なる名前を与えている。

処がここに面白い事にはフランスの FELDMANN は BOERGESSEN が上記の初めの論文即ち 1943 年の論文を発表した前年に已にこの問題にふれそのヒカゲノイト科(Nemastomaceae)に関する Remarques sur les Némastomacées なる論文に於いて J. AGARDH の *Titanophora* なる節に入れられた種はヒカゲノイト科に移さるべきもので其の上 *Titanophora* なる節名はとつて其の儘新属名とすべきものであると全く上記 BOERGESSEN と同じ考えに到達しているのである。依つてベルゲーゼンによつて区別された 5 種の正しい学名は次の様になる。即ち *T. Pikeana* (DICKE) FELDMANN; *T. incrustans* (J. AG.) BOERG.; *T. Weberae* BOERG.; *T. mauritiana* BOERG.; *T. calcarea* (OKAM.) BOERG. そして今紀州から新たに知られた *T. Weberae* BOERG. に対してはベニザラサなる和名を与え度いと思う。

本稿を草するに当つて標本の寄贈をえた森島千景氏の御厚意を深謝し、又同時に木下虎一郎、山本虎夫の両氏に厚く感謝の意を表するものである。

(北海道大学理学部植物学教室)

新 著 紹 介

コ ス タ ー 著

オ ラ ン ダ の ネ ダ シ グ サ 属

J. TH. KOSTER: The genus *Rhizoclonium* in the
Netherland. Pubbl. Staz. Zool. Napoli,
1955, vol. 27, p. 335-357.

オランダの海産のネダシグサ属は多くの場合汽水、鹹水等の粘土、砂、石、木等の上には他の植物と混じている。この属の種の同定は殆んど糸状体の細胞の大きさによつて行なわれている。然し、この大きさは文献によつて区々であり、更に根の様な枝の有無についても区々なので、種の同定は困難であり、正確を欠く事が多かつた。

そこでコスター女史はこの属を研究するに当り、多くの古い基準標本を検し、同国から 1 種、2 品種を明かにし、之等のシノニムとすべきものを多く見出している。この様に多くの古い標本を検する機会に恵れていることは、我々科学の歴史の新しい国にある者に